

小さな島の試み：20年以上続く佐久島の子どもたちがつくる藻場再生活動

島を美しくつくる会・西尾市立佐久島しおさい学校・西尾市・西三河漁業協同組合・有限会社鈴木ダイビングサービス

〇プロジェクト概要

愛知県西尾市の佐久島では、平成14年（2002年）に佐久島中学校（当時）の一生徒の「魚の住むアマモ場の環境を守っていききたい」との思いから活動は始まりました。その後も学内での活動は受け継がれ、アマモの移植活動、アマモの花枝採取及びゾステラマットによる播種を継続して行っています。

平成20年（2008年）からは島民による島を活性化させることを目的とした活動団体「島を美しくつくる会」及び行政の西尾市佐久島振興課が島外ボランティアを募り、多くの人々の協力のもとで、アマモ場やアサリの調査、アマモ・コアマモの移植、海岸の清掃などを実施しています。

毎年度の初めには、児童生徒へアマモを保全する意義を学ぶ機会を設けています。ブルーカーボンについても学習し、島外ボランティアや他地域との交流の中で児童生徒がアマモの再生活動についての説明や発表を担うこともあり、児童生徒及び参加者のアマモ保全の意義への理解がより深まっています。

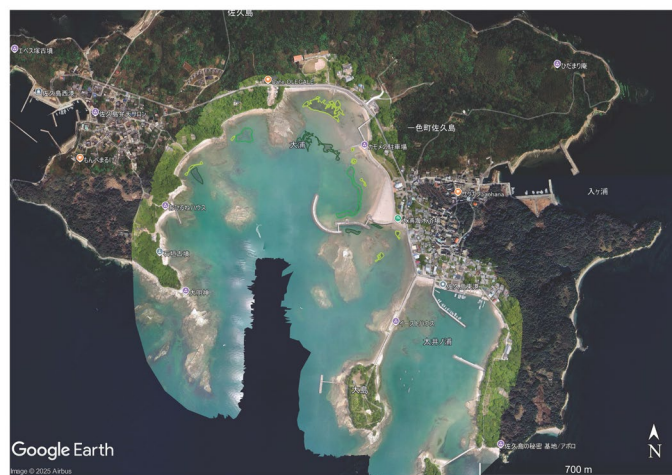
〇プロジェクトの特徴・PRポイント

これまでの活動により、佐久島の浅場環境及びアマモ場が保全され、二酸化炭素吸収源が維持されています。佐久島の人口は200人に満たず、そのうち約半数が65歳以上のため、プロジェクトの実施には島外ボランティアの協力が大きく寄与しており、「ブルークレジット」の取得により情報を発信することで、ボランティアの増加と共に資金が得られることが望まれ、継続した気候変動緩和策に寄与できると考えています。

また、佐久島しおさい学校は島外から通学する市内在住の児童を募集しています。児童生徒が主体となって活動するこれまでにない本プロジェクトが「ブルークレジット」を取得することで、学習の場として価値を高め、通学希望者へのPRにつながるとともに、児童生徒が今後も継続して意欲的にプロジェクトに取り組んでいくことができる見通しです。



モニタリング



アマモ花枝採取



生徒による説明



アマモ・コアマモ移植



アマモ播種



アマモ場生き物観察



アマモ・コアマモ移植



アマモ・コアマモ移植
(ボランティア)



アマモ播種

